日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会 地震ＰＳＡ分科会
第３回 地震ハザード評価作業会 議事要旨

日 時： 2004年9月2日（木） 9:40〜12:40
場 所： (独)原子力安全基盤機構 第１３，１４会議室
出席者：（敬称略）
委 員　　蛯沢〈主査〉、野田〈幹事〉、安中、石田、宇賀田、奥村、尾之内、
　　香川、小畑、福島、藤原、吉田 12名
代理委員　坂上（入野）、山田（尾崎） 2名
　常時参加者　難波、堤、美原、三明 4名
　傍聴者　　水谷 1名

配付資料
　P7WG1-3-1 第２回地震ハザード評価作業会 議事要旨（案）
　P7WG1-3-2 米国原子力学会における外的事象ＰＲＡ手法の米国標準規格
　P7WG1-3-3 地震ハザード評価手法における重要課題
　P7WG1-3-4 地震ハザード評価手法の目次（案１）
　P7WG1-3-5 地震ハザード評価手法の目次（案２）
　P7WG1-3-6 時刻歴波形の作成

議事要旨：
議事に先立ち、蛯沢主査より委員１４名（欠席は能島副主査、高田委員）が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

１）前回議事要旨（案）の確認［P7WG1-3-1］
資料確認に引き続いて前回議事要旨（案）の確認を行い承認された。

２）人事について
常時参加者として難波氏・堤氏（原子力安全基盤機構）の推薦があり承認された。

３）幹事会での議論の概要報告［参考］
8/25に開催された幹事会において、地震ＰＳＡ全体の目次構成などについて議論がなされたことが報告された。

４）米国原子力学会における外的事象ＰＳＡ手法の米国標準規格の紹介［P7WG1-3-2］
ＡＮＳスタンダードの地震ハザード評価における高位要件について紹介がなされた。
・蛯沢主査より、本日紹介したＡＮＳスタンダードと国内手順について、次回の作業会までに比較表を作成するとの意見があった。

５）地震ハザード評価における重要課題の検討［P7WG1-3-3］
前回の作業会までの各委員による情報紹介を受けて、地震ハザード評価を行う上での課題を整理するために蛯沢主査が作成した資料についての紹介がなされた。
・学会の標準として取り扱うべきかどうかを判断するために、多数の見解であるか否かを付記すべきとの意見があり、各項目の“難易度”と“取り扱いの仕方”に加えて、“標準（多数の見解か、少数の見解か）”についても各委員へのアンケートを実施することとなった。
・項目の１つ目について、推本の知見を説明する上では、地震動予測地図は評価の一例を示しているに過ぎず、これを使えと言っている訳ではないことは明確にしておくべきとの意見があった。
・年当たりの評価とするか、供用期間を踏まえた評価とするかについては議論があったが、ロジックツリーを用いて不確定性を評価することについては共通の認識を有しているとの見解に至った。
・地震動評価の手法として断層モデルも採用できることについては共通の認識を有しているとの見解であり、使い方に関しては、対象地震が高頻度である場合か、もしくは地震ハザードへの影響が大きな震源の場合に用いることが考えられるとの意見があった。

・地震ハザード評価においては実現象として起こり難いと考えられるレベルの地震動強さが得られることに対して、原子力としてどのレベルまで見ておく必要があるのかを踏まえながら、地震動の上限値の観点で附属書（参考）などで何らかの記載ができないかとの意見があった。

６）地震ハザード評価における目次案の紹介［P7WG1-3-4、P7WG1-3-5］

幹事会で議論中のものであるため、本作業会では内容の説明は割愛された。

７）時刻歴波形の作成について［P7WG1-3-6］

地震ハザード評価と建屋・機器フラジリティ評価の両者に関与すると思われる時刻歴波形の作成について、両評価における項目の書き分け案が紹介された。

・蛯沢主査より、フラジリティ評価側で時刻歴波形をどのように使用するかについて簡便法と詳細法の観点で整理しておく必要があるとの意見があった。

８）その他

次回の作業会は9/27(月)午前もしくは10/1(金)午前とし、地震ハザード評価における目次構成・重要課題・執筆分担について議論する。

以 上